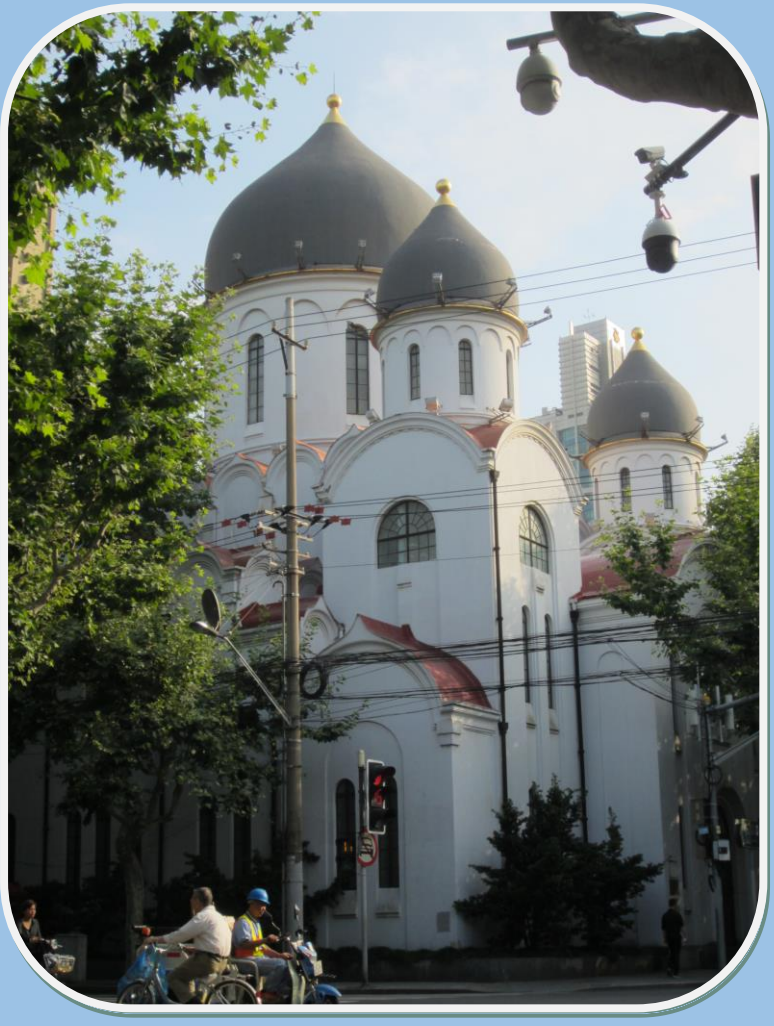
西日本正教

西日本主教教区　宗務局

604-0965　京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283
京都ハリストス正教会 内
電話・FAX　（075）231−2453
郵便振替口座　01030−5−18547

No.146
Summer,2019



上海聖母大堂

上海市新楽路五五号。一九三六年、亡命ロシア人の献金によって建立。一九六二年に主教が永眠するとともに活動を停止し、今は使用されていない。

～内容～

教区会議、全国公会、教区ニュース
ナファナイル小川師『四国に於ける伝道記憶』
グリゴリイ伊藤師『上海に残るロシアの痕跡』
その他

西日本主教教区　教区会議

六月一六日（日）西日本主教教区「教区会議」が京都正教会、生神女福音大聖堂、西日本教区センターを会場に開催された。

司祭会議・教区理事会（一四日・一五日）

教区会議開催に向け、一四日（金）午後一時半～司祭会議、一五日（土）午前司祭会議、午後一時会計監査、二時～理事会。理事会では、過年度と新年度の業務報告・計画：及川、財務諮問委：松島師、諸規則委：後藤師、宣教企画委：伊藤師、決算報告（教区センター含）・監査報告・予算案説明・承認：佐藤財務部長、教区宣教献金の概要・御礼等、これらすべてを原案どおり本会議にかける事が決議、承認。全国公会代議員と会計監査が推薦・承認された。

教区会議　新年度教区活動と懇親会

一六日（日）午前聖神降臨祭聖体礼儀、大阪・神戸・名古屋・豊橋はじめ西日本から参集した信徒が聖歌隊に参加した。十字架接吻の前に、ダニイル座下から京都正教会へ記念の聖像と大福音書、信徒には乳香が贈呈された。

昼食後すぐに本会議。議長ダニイル座下のご指名により副議長に松島師・佐藤孝雄兄ほか議事役員の選任のあと議事進行。理事会から上程された過年度と新年度の業務報告・計画、教団三委員会報告、財務部長から決算報告（教区センター含）・監査報告・予算案の説明と承認等が行われた。新たに神戸の尾又慎一副輔祭を会計監査に選任。

宣教・牧会に関する懇談会では、大阪の山川兄の提題・司会、福岡の市来兄、豊橋の三井兄等、意見交換が行われた。

宣教活動としては教区センターを活かした講演会・コンサートなどの諸行事、名古屋：冬季セミナー、大阪：奉神礼基礎講座、広島祈祷集会など。出版物、西日本正教年二回発行、宣教冊子、宣教献金募集広報は一一月。

さいごに七月全国公会代議員が選任され、四時に会議終了、記念写真。京都婦人会による温かなおもてなしの懇親会。広大な西日本各地から参集した信徒の皆様、ありがとうございました（及川記）。

全国公会　開催

七月六日（土）

東京ニコライ会館において、一三時半開会祈祷、ダニイル府主教座下の開会宣言により一九年度全国公会を開始。議長ダニイル座下のご指名により、副議長・書記・議事録署名人・議事運営委員等が選任された。そのあと副議長の司会のもと、ダニイル座下の訓示、宗務総局の教団活動報告：及川師、財務諮問委：松島師、全国宣教企画委：水野師、諸規則検討委：桝田師がつづいた。

会議後、宣教懇談会が、福岡伝道所の市来兄の司会で行われた。

夕方六時から東京復活大聖堂で晩祷が執り行われた。

七日（日）

午前中、ダニイル府主教座下、セラフィム大主教座下、全国の司祭が陪祷する主日聖体礼儀。祈祷中、昇叙する三人の司祭に祝福。説教：中西師、領聖後、教役者記憶リティヤが執行された。

昼食後、公会第二日目の日程案に沿って議事再開、過年度決算報告：小島財務部長・監査報告、予算案上程が行われ、いずれも全会一致で承認。会計監査の選任などの議事のあと、ダニイル座下の所信表明、昨年購入された伊豆熱海の土地の使用等の凍結の発表、東日本大震災復興の掉尾を飾る昨年秋の岩手県山田正教会復活会堂成聖について、山田正教会、白土六郎兄の御礼の言葉、教団人事の発表、セラフィム座下の閉会の言葉により閉会。閉会祈祷、記念写真、祝賀会をもって公会は無事終了した。

長年、教団会計監査であった京都の佐藤孝雄兄が退任、深く感謝申し上げます。遠く西日本から出席された皆様、猛暑の中ありがとうございました。

（及川記）

教団人事

（正式には八日一日発令予定）

☆昇叙と祝福

昇叙・祝福

長司祭クリメント児玉慎一師（仙台）

飾十字架・パリツァ佩用

祝福

司祭イアコフ篠永眞師（苫小牧）

金十字架・カミラフカ・

ナベトロニク佩用

祝福

司祭グリゴリイ水野宏師（横浜）

金十字架・カミラフカ・

ナベトロニク佩用

祝福

自給伝教者パウェル伊勢良行先生

（大船渡 盛）

☆人事異動

＋函館正教会（上磯含）

当面、仙台・中新田・白河兼務

管轄　任命　祝福

長司祭クリメント児玉慎一師

（仙台離任）

＋仙台正教会（中新田・白河含）

当面、盛岡管区兼務

管轄　任命　祝福

長司祭 ダヴィド水口優明師

（盛岡離任）

＋札幌正教会（副司祭）

管轄　任命　祝福

司祭エフレム後藤悠太師

（神戸離任）

＋人吉正教会（九州管区）

管轄　任命　祝福

司祭グリゴリイ水野宏師

（横浜離任）

＋神戸正教会

管轄　任命　祝福

司祭 ワシリイ 杉村太郎師

（人吉離任）

＋盛岡正教会（予定　司祭叙聖後）

管轄　任命　祝福

ピーメン松島拓神学生

（正教神学院卒業）

☆管轄等について

＋福島正教会

仙台正教会に吸収合併

＋横浜と手賀正教会

東京大主教教区　宗務局長

監督下の運営

＋宇都宮正教会

司祭ミハイル対中秀行師（東京）

兼務

＋和歌山と柳井原正教会

西日本主教教区　宗務局長

監督下の運営

＋中国地方（広島含）

西日本主教教区　宗務局で検討

＋修道院計画案（熱海の土地含）

凍結・閉鎖

☆教団役員人事

新任　宗務総局役員

司祭ディミトリイ田中仁一師

（小田原）

新任　教団会計監査（任期一年）

イオナ近藤孝邦兄（東京）

ダリヤ吉永孝子姉（東京）

☆休職

長司祭イサイヤ酒井以明師（豊橋）

教区ニュース

第四回奉神礼基礎講座
奉神礼を楽しく
―聖体礼儀「アミン」（然り）

三月二一日（木祝）、西日本主教区教区行事、第四回「奉神礼基礎講座」が、大阪教会で開催され二十八名が参集しました。講師はゲオルギイ松島神父と、マリア松島姉。

まず前回の復習として正教奉神礼の基調は「前に進む」、「門を入って新しい世界に入る」動きであることが確認されました。「奉神礼」の原語「リトゥルギア」は「人々の仕事」の意味で、ハリストスを頭とした教会の共同の仕事であること、それを最も端的に表している祈り「アミン」の聖書的な意味、さらに、クリスチャンの信仰姿勢として、常にハリストスによってもたらされた救いへの合意が求められていることを知った上で、聖体礼儀冒頭の「アミン」を歌いました。さらに聖体礼儀の中心であるアナフォラ（聖変化）の「アミン」は主のことば「取りて食らえ」に対しての「アミン＝その通りです。受けます」であることを踏まえて歌います。

午後からは「大斎から復活祭」が毎日、毎週のサイクルとして繰り返される「すぎこし」の完成であることを学びました。最後は大斎晩課を受講者で誦経分担し、ぴったり息の合った晩課を祈りました。

次回は九月二三日（月祝）、「ポロキメン―誦経と聖歌の掛け合い」を予定しています。堂役、聖歌、誦経に奉仕しておられる方、正教奉神礼に関心をお持ちの方、どなたでもご参加いただけます。次回はぜひご一緒に。

正教会　春のコンサート

五月六日（月祝）午後二時～三時、京都の西日本教区センターにおいて、表記コンサートを開催。まず一時四五分～、協賛：関西盲導犬協会の啓蒙活動。盲導犬訓練士がＰＲ犬バーネン号と共に、現場を意識した実地のシュミレーション、歩行演習など盲導犬の仕事を紹介。全国の視覚障害者、盲導犬貸与希望者約一万人に対して、現実には千頭にも満たない盲導犬が活躍しているとのこと。今回の募金が、盲導犬の育成と仕事を終え引退した盲導犬の老後生活にすこしでも役立つよう祈ります。

コンサートは、「フォーバイフォー」による合唱。男性歌手四人、女性ピアニスト一人の五人。同志社グリークラブの卒団生が結成し、一九八〇年頃から活躍。団員の年齢差二〇歳、平均年齢七〇歳の合唱団。京都正教会の聖歌指揮者キリル佐藤道雄兄がリーダーとして参加しています。なつかしい歌が日本語と英語で一〇曲以上披露されました。〝Night and Day〟〝涙そ

うそう〟〟街の灯〟〟Take Me Home, Country Roads（故郷に帰りたい）〟などです。あまりに見事な歌声にアンコール、さらに二曲歌われました。フォーバイフォーの皆様に感謝します。また駆けつけてくださった大阪正教会の松島師ご夫妻、信徒の皆様、ありがとうございました。出席者八二人、西日本主教教区主催。

会のあとの聖堂拝観に一四人の市民の参加。これからも根気よく宣教活動をつづけます。皆様のご協力に感謝します。（及川記）

広島地区　復活祭宣教祈祷集会

（教区後援　聖体礼儀と講演）

復活大祭後の光明週間の水曜日（五月一日）、広島袋町学区会館で広島地区の信徒、求道者十二名が参加し復活祭聖体礼儀をお祝いし、午後からは「聖体礼儀　正しい食事」というテーマで、正教会の機密についてのとらえ方を、松島神父が講演しました。他教派からの参加者五名を交えて九名が聴講しました。一一月に予定されている秋の集会は一一月二四日（日）、ちょっと趣向を変えて広島の皆さんに教区全体からエールを送ります。同封のチラシをご覧下さい。

京都　感謝祈祷と聖鐘の成聖

四月七日（日）聖なる階梯者聖イオアンの主日聖体礼儀後、感謝祈祷と聖鐘の成聖祈祷を執り行いました。感謝祈祷は、新入学・進学・進級・就職などを祝うもので、子どもばかりでなく、たくさんの大人も参祷。聖鐘は昨年末にヒビ割れた小鐘（直径三〇センチ、重さ約一五キロ）を新調、芳工房製です。信徒二家庭による献納であり、深く感謝します。この日は、生神女福音祭、京都聖堂の堂祭にもあたり、いつにもまして盛大な祝いとなりました。成聖祈祷後、さっそく小鐘が鐘楼に取り付けられ、五か月ぶりに七つの聖鐘がそろい、小鐘二個による連打も復活、美しい鐘の音が響きわたりました。

南通（上海近郊）における新船成聖式

七月三日、中国南通市（上海近郊車で二時間ほどの距離）においてギリシャ船舶の新船成聖式を伊藤神父が行いました。本船は愛媛県今治の船会社が NACKS（中国の造船会社 COSCO と川崎重工の合弁会社）に発注し、ギリシャの NAVIOS 社が運用するものです。以前、同社の船を及川神父様が成聖されたことから、今回、西日本主教区にご祈祷の依頼がありました。

NAVIOS 社の CEO アンゲリ・フランゴウ氏によって船は「NAVIOS LIBRA」と命名され、続いて船内ブリッジに移動して、神父が新船成聖式ならびに航海安全祈祷を行いました。NAVIOS LIBRA は鉄鉱石や石炭を運搬する貨物船です。七月末までに艤装（船の装備を整えること）を済ませ、就航することになっています。

グリゴリイ水野師、人吉へ

人吉ハリストス正教会管轄司祭を拝命しましたグリゴリイ水野宏です。四〇代で会社員人生と決別し、ちょうど一〇年前に司祭に叙せられて以来、ニコライ堂と横浜教会で奉職して参りました。

私は今年で五六歳ですが、このたび九州での宣教を拝命したことは、旅を続けて多くの人々を信仰に導いた聖使徒パウェルと同様の機会が自分に与えられたものと考え、大いに心が燃え上がっております。

今後も末永くよろしくお願い申し上げます。

エフレム後藤師、札幌へ転任

神学校卒業後、七年間、西日本主教区でお世話になりました。困難と挫折の連続でしたが、神父様方や信徒の皆様のご協力、そして神の恵みの中で、神品として半歩は歩み出せたような気がします。北の大地で頑張ります。

四国に於ける伝道記憶

司祭　ナファナイル　小川　卓

今から百四十二年前の明治十年に、徳島に正教が伝道され、四国に於いて最初の基督教の始まりとなった。

大阪・高麗橋付近に明治七年、伝道所が設けられ、和歌山には翌八年、当時は汽船を利用して寄港できる町々に伝教者を派遣、西へ西へと足を伸ばしている。

始めて徳島へ派遣されたのは伝教者パウェル中小路であった。彼は丹波篠山の人と言われているがはっきりとは判らない。この後を継いだ司祭の曾祖父シメオン小川一郎の履歴書なるものに、パウェル中小路伝教者の名前が誠一郎と書かれていた。

「私儀、明治十年八月、阿波の国・中通町（なかとおりまち）、ハリストス正教会に於いて、伝教者・中小路誠一郎よりハリストス正教の教理を聴聞し後、信徒とならんとの希望を以て管轄司祭イアコフ高屋仲より十一年一月に洗礼を領け、ハリストス正教会の信徒となり、翌十二年七月より伝教に従事」とある。

七月は全国公会が開催、徳島の伝教者パウェル中小路、伝教補シメオン小川、管轄司祭は大阪在住のイアコフ高屋仲、大阪から鹿児島迄の広範囲を管轄している。

明治十四年の公会で小川一郎は副伝教者となり、徳島各地を駆け巡っている。彼が入信した時は士族崩壊の時代、小川一郎始め、廣岡・益田と言った蜂須賀家の家臣が正教徒となり活躍を始める。しかし、基督教への弾圧も強く、小川一郎・一家は村八分にされてしまい、周囲からは耶蘇教と詈（ののし）られ、石を投げられたと伝えられている。彼は妻を早くに亡くし、子供も幼く廣岡家の末娘・六女（むめ）と再婚した。その為、大正四年の永眠するまで、伝教者を貫いた。

ニコライ益田永武は徳島新聞の初穂となっている。彼は一人息子ティモフェイをアメリカへ留学させたが其の妻エカテリナも若くして胸を患い永眠し、彼も妻を懐いて帰国後、永眠。哀しくも益田家は継承者を失った。

小川一郎は徳島の各地、撫養（むや）、脇町、池田地方へと足を運んだ。ワルナワ遅澤栄二氏が徳島へ伝教者として派遣された時、小川一郎と一緒に講話に付いて行った時、小川一郎は丸木橋から川へ転落。遅澤は慌てて

沢に下り、流れて来る先生を助けたのであったが、彼、曰く「何、草履が落ちたので拾ったのだよ」と言ったと云う話を遅澤神父が父にされていた。負けず嫌いの頑固者か説得力も強いのには感服すると話して居られたそうである。

その後、遅澤伝教者は明治二十七年の日清戦争に出かける際、ニコライ主教に別れの挨拶に伺う。主教は彼の為に祈祷し「貴方は無事帰還します、帰還したら又、教会の為に働きなさい。」死に直面して主教の言葉は真実であった。

遅澤栄二師は昭和二十五年、司祭に叙聖され、四国・中国の伝道に八十八歳まで従事する。いや、九十二歳まで柳井原教会を訪れている。

柳井原ハリストス正教会

話が前後するが、徳島初の管轄司祭としてパウェル森田亮が就任する。彼は三十五歳と云う一番の若さで司祭となった。司祭は三十を過ぎた者という規程に基づくもので彼は伝教者と徳島地方を歩いて「此の様な交通事情の悪い、凸凹の多い所は私に向いていない」とニコライ主教に転任を申し出ている。一年半という短い任期で在った。確かに彼は頭脳明晰で、ニコライ主教の補佐役を勤め、彼を痛悔司祭として各地の司祭家族の為に巡回させた。セルギイ主教になってからは東京・四谷教会の管轄司祭となった。その後、真木神父が管轄司祭として赴任。小川一郎は徳島から出ることを決意。

明治二十年七月の公会で徳島の宿場町、香川・高知へ通ずる脇町で教会を設立し、伝教者として転任を申し出る。ニコライ主教は之を許可。此の間、医師のルカ宮井誠二、マルコ斎藤秦進など現在の徳島教会の基礎が着実に定着していく。神学校へも多くの人々を送り撫養には富田製薬のニコライ富田九三郎が提供して教会を開き、徳島出身の伝教者・ペートル梯小一郎（後に司祭）脇町の近くの榛原からはイアコフ出原惣太郎（後に司祭）池田から真鍋理重など、斎藤秦進も神学校へ進んだが盗難事件があり、他人の罪を負って帰徳、ドイツへ留学している。

徳島県美馬市脇町(うだつの町並み)

愛媛・宇和島からは山家(やんべ)神社の子息ペートル頼行(よりゆき)（後に長司祭）が出家して入信している。

脇町では宣教の傍ら、剣道師範の腕を持って脇町中学で剣道を教えた。到底、給与だけでは八人の家族を養う事は出きず、子供達を東京と京都の神学校へ進めた。彼が脇町へ赴任した頃、宿場町という事もあり、盗賊も多数出没、剣では應わない盗賊首に「教会へ来い！」と誘い、改心させ、信者にさせたと云うエピソードも残っている。

県に提出された信徒数は、日露戦争後に増加、明治四十二年に百六十名と報告している。二年後は百八十七名と遂には徳島の信徒数を追い抜く程であった。

明治が終わり、大正四年十二月三日、小川一郎（七十四歳）の永眠により衰退の一歩を辿る。彼が永眠した後、罪生の祖父フェオドル公一は神学校を中断、脇町の教会を維持するが一年で神学校へ帰る。ワシリイ武岡武夫神父は父・グリゴリイ小川公に何時も「お父さんは一級上だよ」と話されていたようだが一年遅れて卒業している。

この時の神学校に於けるロシア語は他を抜き、当時の状況から多くの卒業生が通訳官としてシベリヤへ渡っている。教会へ勤めるにも革命以後、給与が支払えず、百名を超えた伝教者が消えた。

徳島でもパウェル真木神父（明治三十六年、台湾へ転任）、パウェル小杉神父（大正七年）の後、梯神父の時代は司祭独りの時代となり、四国は愛媛、高知、香川など徳島以外の教会は全て姿を消す事になる。梯は撫養の伝教者の後、徳島の司祭となり、終戦の年の二月まで在住したが、病と戦火の中、司祭給与を信徒から集めるのも困難になり、大阪府守口市の長男宅に移った。彼は自分の死を悟ったかの様に其の朝、祭服を付け祈祷し、午後永眠した。五月三十日、八十一歳であった。

戦後、昭和二十二年、大阪のアレキセイ三谷武馬師（高知出身）が司祭となり、徳島を巡回、二十五年に高松に居られたワルナワ遅澤栄二師が司祭となり、岡山・四国を巡回する。

その後、大阪・神戸の司祭が巡回、京都の主教としてフェオドシイ永島新二坐下が大阪に在住し就任、昭和四十五年、父・グリゴリイ小川公が輔祭に叙聖され、三年後に司祭となり、和歌山、徳島、高松を巡回する。

松山には大正時代まで日露戦争によるロシア人捕虜の為の聖堂が現在の城の南、全日空ホテルの傍に在ったが関東大震災によりニコライ堂が焼失。駿河台へ小聖堂として移築された。

現在、聖障は大阪教会に、他の聖像はニコライ堂の南北の壁に掲げられている。

松山ロシア人墓地

現在、九十八名の墓碑が在り、松山の観光名所のひとつになっている。ロシア人墓地保存会の方々と地元・勝山中学校の生徒達の手により清掃活動が行われ、徳島からは毎年十一月三日にパニヒダが献じられている。（今年は四日）

和歌山にはイリヤ斎藤正俊自給伝教者があり、復興に努力したが時代の潮流に乗ることは出来なかった。

徳島でも毎月一回、主日祈祷に信徒家庭を巡回し、僅か八軒で復興献金を募り、現在の西新浜町一丁目に大阪・ゾシマ西沢恭二兄の土地を購入する。此の機運の中、信徒が五百万を借金するなどの非常な努力により、昭和五十五年十月十二日に新聖堂が復興した。

元々、徳島教会は、現在のお茶の水にある井上眼科の郷里の別宅を借りて教会としていた。聖公会やカトリック教会は土地を求め、会堂を建てたが、正教会は物に執着せず、何故か借地・借家であった。寧ろ徳島では和歌山の方が信徒も多く先に教会が建つだろうと思っていた。

和歌山は戦前、現在の日赤病院の前に土地と会堂が在ったが、戦災に遭い、戦後、残念ながら有耶無耶の中に売却されてしまう。僅か五十万円が残り、時の斎藤神父夫人が祖母の処に相談に来たらしい。和歌山は大阪教会に頼り、残金の処遇を大阪に納めると言うのであったが、祖母は和歌山に止どめ積立てる事を提案、小川公が巡回を始めた時には百七十万で在ったが、現在は預貯金を含め一千万円を越える現状にある。現在は信徒宅にて年四回の主日代式祈祷と、春と秋に墓地祈祷を行っている。いつかは「聖堂を！」という夢を胸に抱いている。

和歌山・徳島・高松の三教会がそれぞれ復興献金を募り、徳島は聖堂を得たが、信徒数も少なく、定額献金・聖餅献金の額も非常に高額だが、徳島のみならず、地方の方々からの多くの献金で支えられ、自動車の維持費やガソリン代等は司祭に頼っているのが現状である。

十数年前に防水工事・聖堂の壁の塗装を施したが、最近、司祭館の二階天井部が崩落し、修繕工事が自費にて行われた。司祭館・聖堂の劣化も酷く、修繕の為の費用が必要とされる模様。

今日では信徒の代もかわり、信仰面でも実質面でも之に対応する一人一人の信仰の実践が甘く、実生活の中に優先される事が少なくなったのは残念である。祖先の確信に満ちた信仰と、此の生命の為の真実を伝える正教の信仰を顧みて神から特別に与えられた尽きる事のない愛を心に認め、参祷に励むことを願いたい。

二〇二〇年一〇月、徳島教会は聖堂建立四〇年！

長司祭グリゴリイ小川公は輔祭を含め、叙聖五〇年！

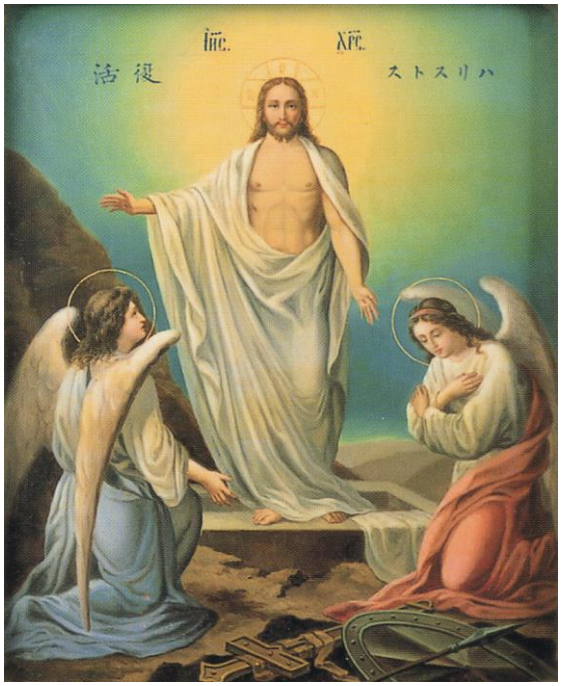
父、小川公は病気療養中ではあるが徳島・高松・和歌山・柳井原の信徒にとって精神的支柱にあることは誰もが承知のことであろう。これからも大きな愛を以て、全力で皆様と共に一歩一歩、歩んで参りたい。又、ご加祷を願いたい。

お話の最後にセルギイ府主教の口述を記したい。「教会は、土地や建物が在るから教会ではなく、貴方々一人一人が集い、一体となり神に祈る所が教会です。聖堂を建てるのは神の尽きる事のない愛を以て、聖所を設け、主が教えられた聖体礼儀を執行し、信徒の為に記憶し、霊の憩う所でもある自らの家庭を維持する如く、自らの教会を維持しましょう。人々の救いの為、永遠の生命の為に、神の教会を愛しましょう！」

「愛は絶えることがない！」

コリンフ前一三・八

「至聖生神女」イリナ山下りん
徳島教会所蔵



「主の復活」イリナ山下りん
柳井原教会所蔵

上海に残るロシアの痕跡

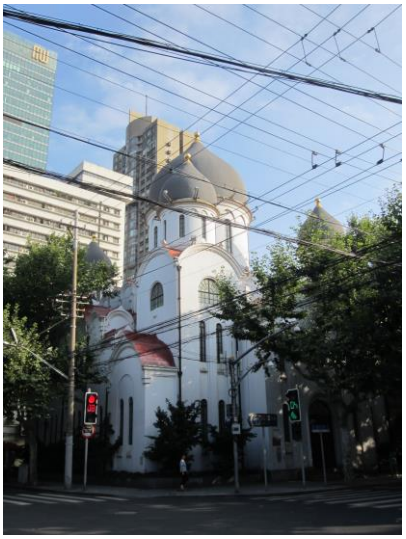
司祭　グリゴリイ　伊藤慶郎

一九一七年に起こったロシア革命を逃れて多数のロシア人がロシア国外へと脱出した。中国の上海にはイギリスやフランスの租界があったことから、革命後、多くのロシア人が移住し、一時は二万人以上が住んでいたという。一九四九年の中国における共産主義国家の成立以降、ロシア人はさらなる移住先を求めて、オーストラリアやアメリカに渡っていったため、今では上海在住のロシア人は少数である。とはいえ、一時期、少なくないロシア人が生活した痕跡は今も上海にいくつか残っている。今回、七月三日の南通市でのギリシャ船の新船成聖の前後にたどった上海に残るロシアの痕跡について報告する。

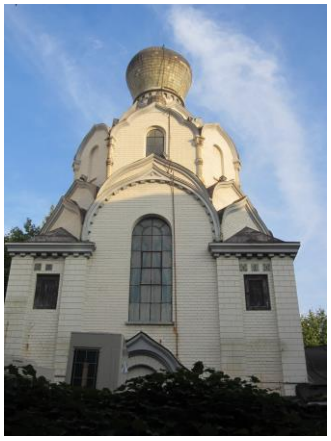
ロシア正教会の聖堂

上海には一九三〇年代に七つのロシア正教会の聖堂があったというが、現在残っているのは二つである。

①聖母大堂　上海市新楽路五五号。上海在住のロシア人正教徒の献金によって一九三六年二月に建設された。五つのドームを持つ主教座教会だった。一九六二年、中国人主教の永眠にともなって宗教活動を停止した。以後は倉庫などに使われており、最近になって歴史建造物として修復されているが、内部は非公開である。堂内のフレスコ画のほとんどは文化大革命の際に破壊されたが、ドーム天井のフレスコ画は漆喰で塗り固められていたので、漆喰が剥がされて修復されているということである。



②聖ニコライ教堂　上海市皋蘭路一六号。一九三四年三月成聖。ヤーロン設計。一九五五年八月に閉鎖される。帝政ロシア最後の皇帝ニコライ二世を記念して命名されている。以前はレストランとして使用されていたが、現在は閉鎖されている。



ロシア総領事館

上海市黄浦路二十号。一九一六年、ドイツ人建築士によって設計された世紀末折衷様式の建物である。ロシア総領事館は一八九六年に設置され、一九一七年にこの地に移転している。一九六〇年代の中ソ対立時には閉鎖されていたが、一九八六年にソ連総領事館として再開、現在はロシア総領事館として利用されている。

上海におけるロシア料理

上海は日本でいえば横浜や神戸のような開港地であったために、欧米文化の

影響が強く、洋食文化が定着している。代表的なロシア料理として、ポテトサラダとボルシチがあり、日常的に家庭で供せられるということである。

①ポテトサラダ　オリビエサラダが原形と思われる。角切りのゆでじゃがいもとプレスハムとグリンピースをマヨネーズで和えたもの。素朴な味。

②ボルシチ　羅宋湯（ロシアスープ）と呼ばれる。焼き豚、じゃがいも、タマネギ、トマトが入ったトマトスープ。ビーツが入っていないので、とてもボルシチとは呼べず、むしろミネストローネに近い。

作り方（想像）　焼き豚を薄切り、じゃがいもを角切り、トマトとタマネギをくし切りにして、トマトジュースと水で煮込み、塩、こしょうで味付けする。はっきりいってあまりお勧めしません。

永遠の記憶

函館正教会、神僕長司祭ニコライ・ドミートリエフ師、六月一三日夜九：五二、永眠、急性心臓疾患、五九歳。一七日（月）通夜パニヒダ、一八日（火）午前に司祭埋葬式が、セラフィム大主教座下ご司祷、東日本教区の司祭の陪祷される中、函館復活聖堂にて執り行われました。西日本では以前、二〇〇七年より一年間、神戸正教会を管轄。教区から弔電を送信しました。心より安息をお祈り申し上げます。

半田ハリストス正教会、半田市の有形文化財へ

半田ハリストス正教会の聖堂（聖イオアン・ダマスキン聖堂）とイコノスタスが 6 月 21 日付で半田市の有形文化財に指定されました。

聖堂はパウエル三澤為勝が資金と土地を献納して、1911 年 9 月着工、1913 年 4 月に竣工しました。以後、1948 年に改修が加えられ、外壁が漆喰から板張りに変更された他はほぼ原形をとどめています。

イコノスタスは王門のイコンに「1880」の数字が書き込まれており、同年、ロシアにおいてサンクトペテルブルグのカザン大聖堂のイコノスタスをモデルとして制作されたと考えられます。1903 年豊橋教会の建設にあたっていたモイセイ河村伊蔵がイコノスタスの建築に指示を与えたということです。また上段のイコンは満州大連のロシア領事館内の小聖堂のイコンが日露戦争後に譲渡されたとも伝えられていますが、詳細は今を持って不明です。

昨年(2018 年) 5 月に半田市より文化財指定に向けての説明があり、8 月に聖堂の、9 月にイコノスタスの専門家による調査が行われました。その後、各種の審議会、市議会での審査を経て、このたびの貴重な価値ある文化財であるとの決定がなされました。

先人が遺したこのすばらしい文化財を、信徒のみならず半田市民の財産として、維持管理する努力が今後とも求められています。

教区の今後の予定

◎生神女庇護祭　合同聖体礼儀、連続講座

日時：10 月 14 日(月・祝)午前 10 時から　会場：大阪ハリストス正教会

講師：司祭ワシリイ杉村太郎師　　※食事は各自で用意してください。

◎秋のコンサート(教区主催、関西盲導犬協会協賛)

日時：10 月 27 日 14 時半～15 時半　会場：教区センター(京都ハリストス正教会)

◎特別講演会　『アウグスティヌスについて』(仮)

日時：11 月 4 日(月・祝)13 時から 15 時　会場：教区センター(京都ハリストス正教会)

講師：片柳榮一先生　　入場無料

◎広島地区宣教祈祷集会(聖体礼儀、宣教講演)

日時：11 月 24 日(日・祝)　10 時から聖体礼儀　会場：袋町学区会館

書籍の紹介

◎パウェル及川信著『聖書人物伝』　近日発行予定！